

marina park city

西宮浜

マリナコミュニティ

開催
オープンスクールデー

西宮浜義務教育学校でオープンスクールが、6月7日に開催されました。子どもたちの様子やトライやる・ウィーク報告会、修学旅行報告会、MJOの演奏会など、盛りだくさんの内容を紹介しします。

①授業参観

西校舎で1～4年生、東校舎で5～7年生の授業の様子を見学しました。1、2年生のチラチラと保護者を気にするしぐさはほほ笑ましく、7年生が英語の授業で英会話を楽しく学んでいる様子は、頼もしく感じられました。



3年生の音楽はリコーダーの練習(左)。7年生の英語はALT(外国語指導助手)の先生を交えて実践的な内容(右)

②トライやる・ウィーク
報告会

8年生は体育館で、5月に行われたトライやる・ウィークの報告会。西宮神社やスポーツパーク、スパーマーケット、スポーツジムなど多様な13事業所での職業体験を、寸劇やクイズなどを交えて分かりやすく、楽しく報告していました。



各チームで報告方法を工夫。クイズ形式の参加型報告(上)と面白く、わかりやすい寸劇



③修学旅行報告会

9年生は円形ホールで、4月に行われた沖縄への修学旅行の様子を報告しました。1時間目にみっちりリハーサルをした後、2時間目が本番です。



ひめゆり平和祈念資料館に関する報告

リハーサルでは先生から声の大きさや話すスピードについてアドバイスを受けていました。練習の成果もあり、緊張しながらもひめゆり平和祈念資料館で学んだことやバナナポート、レクリエーションで友達や先生とのきずなを深めたことなど、充実した様子を報告しました。



一人ずつ、名前を確認してから子どもたちを引き渡していきます

⑤MJO演奏会

ジャズライブは、MJOメンバー8人で4曲を演奏。4月から新しく加わった7年生11人は手拍子で盛り上げます。しっとりした曲、元気な曲、みんなの息が合っていて、聞いているうちに引き込まれ、保護者、先生、生徒、卒業生、たくさんの方の来場者から拍手喝采。

会場の準備や片付けも生徒たちが率先して行っていました。次回の演奏には、7年生も一緒に演奏できるといいですね。



開放的な吹き抜けのアルコブで演奏。多くの聴衆とともに一体感のある時間を過ごせました

※マリナシティ・ジュニアジャズ・オーケストラ



西宮浜の避難所運営について考える

西宮浜の防災について考えよう PART.V

大災害が発生すると、住民が避難所に身を寄せている映像がよく報道されます。避難している人は自宅が倒壊して住めなくなるか、住めなくなる恐れがあるため、自宅にとどまることができなくなった人です。それでは西宮浜でも同様の事態になるのでしょうか？

これまで西宮浜では避難所が開設されたことがほとんどありません。それは、これまで予測される水害などで住めなくなる恐れが発生したことがないからです。また、予測されている南海トラフ地震クラスの地震が発生しても、マリナパークの建物は新耐震基準で建てられているので、全壊することはないといわれています。では、西宮浜には避難所は不要でしょうか？

現在、西宮市では、事前に予測できない大地震などの発生時に、住民たちで開設できる避難所運営マニュアルを検討しています。西宮浜はモデル地区として、マニュアルの作成に加わるようになりました。

今回は、6月22日に西宮浜公民館で行われた「第11回西宮浜の防災・減災を考える会」で行った西宮浜の避難所運営に関する意見出しについてレポートします。皆さんも一緒に考えてみましょう。

●西宮市防災危機管理課からの打診

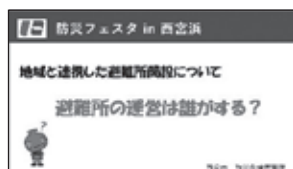
西宮浜では、住民主体の西宮浜の防災・減災を考える会でさまざまな防災に関する課題について検討してきました。令和4年に行われた第4回では、避難所に指定されている西宮浜義務教育学校西校舎体育館で、避難するとどうなるかについて検討しました。その結果、その時点では避難所の運営に関するマニュアルが存在せず、必要な事態が発生してもうまく開設できないことが判明しました。その後、市職員向けのマニュアルとは別の住民向けのマニュアルを作成することになり、今年に入って、その内容について西宮浜で検討できないかとの打診がありました。

防災フェスタでの講演

手始めに、今年3月2日に義務教育学校体育館で行われた「第2回防災フェスタin西宮浜」で、市・防災危機管理

課による講演を行いました。その後、たたき台といえる「西宮浜義務教育学校・体育館避難所運営マニュアル」ができたとの連絡を受け、今回の第11回西宮浜の防災・減災を考える会で取り上げました。

防災フェスタ資料「避難所の運営は誰がする？」のおさらい



防災フェスタ資料

6月22日の会では最初に、趣旨説明にもなっていた市・防災危機管理課によるプレゼン資料を再度読み解きました。内容は、避難場所は一時的に避難する所、避難所は避難して一時的に生活する場所であるという定義について書かれています。また、台風など風水害による場合は予測可能なので市職員が出向けるが、地震の場合は突発的であるため職員が間に合わない恐れが高く、その場にいる地域住民で開設する必要がある

市から提供されたマニュアルの検討



マニュアル検討

こと、その後の運営も住民が自主運営することが原則であることが書かれています。そして、これまでの経験から事前準備ができる項目もありました。準備できることというのは、マニュアルの作成であり、それに沿った事項ということになります。また、市は職員用に避難所に常備するものとしてマニュアル本編、様式集、資料集、リーフレット集(合計120ページ)を作成していますが、住民用のものは薄く読みやすいものにして、と考えているようです。

次に市から提供されたマニュアルについて読み解きました。まず目的として、予測が難しい災害のときは、地域住民が自らの力で開設、運営することが不可欠と書かれています。

また、基本方針として、「生活再開までの支援であること」「ライフライン復旧後には閉鎖する」「住民が自主運営すること」「男女共同参画であること」「要配慮者に配慮すること」「避難所以外に滞在する被災者への支援の拠点とすること」「後方支援は市の災害対策本部が行う」と書かれています。

次に避難所の開設基準ですが、市の災害対策本部の設置基準が震度5弱以上の地震発生時であることから、避難所の開設も震度5弱以上が目安となっています。しかし、現状では避難所の鍵を市や学校が保有しているため、今後、鍵保管庫の導入や地域での鍵の管理方法について、検討を行っていく必要があるのとことです。開錠された後は、避難所の準備を行ってから他の避難者を受け入れることになっています。最初に来た人が入れるという段取りになっています。その後は、後から来た避難者と協力してトイレ使用ルールの適用などを行います。

また、基本方針として、「生活再開までの支援であること」「ライフライン復旧後には閉鎖する」「住民が自主運営すること」「男女共同参画であること」「要配慮者に配慮すること」「避難所以外に滞在する被災者への支援の拠点とすること」「後方支援は市の災害対策本部が行う」と書かれています。

備です。それができたところで、後から来た避難者を受け入れるという段取りになっています。その後は、後から来た避難者と協力してトイレ使用ルールの適用などを行います。

西宮市版マニュアルの感想について

次ページからは避難所運営体制づくりについて避難所の開設から撤収までの流れが記載されています。最後のページは、西宮浜義務教育学校西校舎の部屋割りで、避難所として使える部屋を黄色で表示しています。

このマニュアルについて西宮浜の防災・減災を考える会実行委員会でも事前に検討しました。その結果、「在宅避難者に対する記述が抜けている」「義務教育学校が津波で浸水した場合についての記載がない」などが指摘されました。さらに最初に避難所に来た人に対する負荷が重すぎるという意見も出ました。これらをセミナーで検討す

る場合、具体的な状況でどうするか決めて意見を出し合う形式が良いのではないかと結論になりました。

後半の意見出し

後半は、四つの質問について、班に分かれて意見を出しました。

Q1…最初に避難所に来た時、何が知りたいか？

回答例…鍵の場所、入り方、マニュアルの場所など。

※この質問は、最初に来た人が開設するために何が必要かについて確認するのが目的でした

Q2…体育館に入れたが、後から来た人から質問攻め。対応するには何が分ればよい？

回答例…後ろにいる人たちが、どういふ人かを把握するため、名簿を作りながら待ってもらおう。マニュアルがある場所の把握。

※この質問は、最初に来た人で本当に対応可能かとの疑問があったので聞いてみました。防災担当者がするべきという意見も出てしまいました

Q3…避難所が浸水していたらどうするか？

回答例…体育館は1階なので2、3階の教室に行く。高層マンションの上層階の人と知り合いになっておく。

※この質問は、市は津波による浸水は想定外としていますが、西宮浜の住民が一番恐れている想定なので聞きました

Q4…支援物資が避難所に来た時、どのように分配する？

回答例…避難所の人や弱者を優先して配分。在宅避難の人は各まちで取りまとめて代表者同士で検討して決める。

※この質問は、マニュアルに在宅避難者への対応について具体的に触れられていないため、必要なのではないかと思ひ聞きました。組織的にやる必要があります

最後に、西宮浜義務教育学校の杉田二郎校長から学校と避難所について話を聞きました。自身の阪神・淡路大震災時での経験を交えた話でした。趣旨は、学校は災害時避難所になるが、学校はあくまで学校であり、開校時は生徒優先、

避難が始まってでも学校の再開を優先する必要があるのが大前提。一方で西宮浜地域の中心として、防災に限らず機能することが学校の存在意義にも通じるとの話でした。

『編集後記』今回は意見出し段階でしたが、今回の意見を基に、市や皆さんと検討を重ねて、より実戦的なものを作っていきたいと思っています。チラシなどで案内するので、皆さん一緒に作っていきましょう。



杉田校長



第11回西宮浜の防災・減災を考える会の様子

西宮浜のひとびと(30)

小田 敦子さん

(なぎさ保育園)



**なぎさ保育園を卒園し、
今はなぎさ保育園で先生に**

西宮浜で生まれ、なぎさ保育園を卒園し、西宮浜小学校から西宮浜中学校へと進学。両親と姉の4人家族で西宮浜生活は25年目になります。

改めて小学・中学生時代のアルバムを見返してみると、将来の夢はケーキ屋さんと保育園の先生をいつたりきたりしていました。最終的には保育士となり、3年前から卒園したなぎさ保育園で保育教諭として勤務しています。

今年度は2歳児クラスの担任として、バタバタと日々の忙しきしながら子どもたちの成長を同僚と一緒に見守っています。今のクラスは昨年度の1歳児クラスからの持ち上がりで、子どもたちと目が合うと「小田先生」み

たいな感じで笑顔になってくれます。そんな何気ない日常が、一番うれしいと感じています。

西宮浜の一番好きなのは海が近いことです。休みの日に海辺の遊歩道を一人で散歩し、タイミングが合えば父や姉と何気ない会話をしながら歩くこともあります。

西宮浜の皆さんは、あいさつを大切にされています。エレベーターで一緒になれば、あいさつはもちろんですが「今日暑いですね」「急に雨降ってきたで大変でしたね」などと言葉を交わす文化があるところがすてきだなと思っています。

友達とどこか行こうとなつていろいろな所へ出かけたりしますが、なぜか西宮浜とは時間の流れが違うように感じます。ゆっくり、穏やか、のんびりみたいな。そんな時間の流れがいつまでも変わらない西宮浜であってほしいと思います。

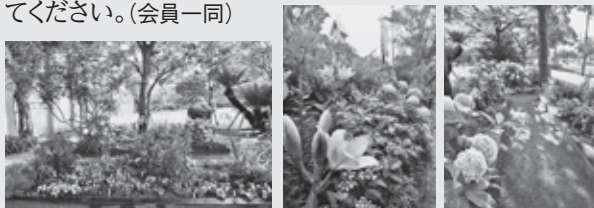
これからも、子どもたちが散歩などで西宮浜の中心にぎやかにしていると思いますが、引き続き、温かく見守っていただければうれしいです。

(取材…大嶋)

**フラワーサークルで健康増進、
街の美化と一石二鳥**
さくら公園
植栽の会

マリナパーク南バス停前と西宮浜公民館前にある花壇の維持作業を、ボランティア6人で取り組んでいます。平成20(2008)年に発足し、今まで多くの皆さんの熱意と協力もあり、地域の癒やしの花壇を目指しています。

空き時間を利用して土に触れ、心癒やされる時間を仲間と共有しています。市から四季折々の花苗配布があります。昨今の温暖化の影響で猛暑が長期間続き、枯れてしまうことが多くなり、水やりなどの作業が追いつかず、花壇維持の困難さも痛感しています。隣接している貝類館や公民館に来館された折は、花壇にも目を留めてください。(会員一同)



西宮浜を彩る花たち

**ニレ公園清掃作業は、
フレイル予防と格好の居場所づくり**
さくら
悠遊
クラブ

さくら悠遊クラブが、桜のまち南側にあるニレ公園の清掃作業を市から委託されて10余年になりました。まさに健康づくりの源の場所になっています。季節によって変わりますが、月2~4回実施。朝9時前に集合。皆さんがおのの清掃箇所に行き、活力が湧き上がります。この1週間ぐらいの出来事やいろいろな話を交わして、小一時間ぐらい経過後、楽しく愉快な気持ちで解散します。この楽しい雰囲気が元気を生み、フレイル予防に大きく貢献しています。おかげで皆さん、元気で過ごしています。(二川)



当日朝に集合し、打ち合わせをして、きれいな公園になりました

公民館地域学習推進委員会からの講座のお知らせ
●姿勢が良くなるセルフケア

9月6日(土) 14:30 公民館講堂

講師：はしもと整形外科リハビリクリニック 橋本慎吾院長、理学療法士の先生方

●みみより広場 「歌と手遊びで楽しく健康に」

10月20日(月) 13:30 公民館講堂

講師：音楽療法士 国枝聡子さん



☎問い合わせ：西宮浜公民館 0798-34-2002